

平成26年度

第3回 鶴岡地域審議会  
会議録

期日：平成26年11月12日（水）

場所：鶴岡市役所 議会委員会室

## 平成26年度 第3回鶴岡地域審議会会議録

- 日 時 平成26年11月12日（水） 午後1時30分～3時15分
- 場 所 鶴岡市役所3階 議会委員会室
- 出席委員（五十音順）  
伊藤俊昭、稲泉眞彦、奥山春名、小林達夫、今間智寛、齋藤春子、菅原衛、高山利幸、  
竹田理英、茅野進、橋本正輝、早坂剛、丸山絢子、三浦惇、山田登
- 欠席委員（五十音順）  
今野毅、竹内峰子、田村勇次、土岐純一、菅隆
- 市側出席職員  
企画部 政策企画課長 高橋健彦、政策企画課課長補佐 佐藤豊、  
政策企画課政策企画主査 上野修、  
地域振興課長 阿部真一、地域振興課地域振興専門員 齋藤芳、  
地域振興課専門員 前田哲佳
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 なし

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協 議  
(1) 新市建設計画の見直しについて  
(2) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について
- 4 そ の 他
- 5 閉会

- 1 開 会 進行：阿部地域振興課長
- 2 あいさつ （早坂剛会長）

欠席委員及び審議会成立 報告  
資料確認

- 3 協 議 （議長：早坂剛会長）

(1) 新市建設計画の見直しについて （説明：上野政策企画主査）

新市建設計画、合併特例債について説明後、資料1にて第2回目審議会からの変更事項について説明。

**○早坂会長** ただ今の説明では、世帯数について22年度から比較すると1,000世帯減り、43,800世帯になるだろうと推定するということでもあります。これについてはよろしいでしょうか。

**○全委員** 了解

**○早坂会長** それでは、他にございませんか。

**○上野政策企画主査** 他には、前回審議いただいた内容から変更する部分はありません。そのまま、何かご意見等ございましたら伺えたらと思います。よろしく願いいたします。

**○早坂会長** 今回の見直しでは、大きく3点の変更ということでありましたが、どこに書いてありますか。

**○上野政策企画課主査** 新市建設計画（案）の45～46ページをご覧ください。46ページの主な事業の2つ目「公共施設等の災害対応・耐震化の強化」と、前のページ「防災・消防などの安全な地域づくり」につきましては項目を追加し、公共施設の耐震化に対応してまいりたいというものであります。

2つ目は、46ページの下に循環型環境社会の推進という項目でございますが、下から2つ目の事業「環境に配慮した廃棄物処理の推進」こちらがごみ処分場を見据えた項目の追加ということであります。

3つ目ですが52ページをご覧ください。ここが公共施設の適正配置と整備という部分になりますが、下から2行目に集約再利用していくことを基本とし、「適切な修繕あるいは維持管理」この行を追加いたしまして、再利用や解体等にも合併特例債を活用できるように条件整備していくものでございます。

追加といたしまして新市建設計画に盛り込む大きな3点としましては、以上のとおりでございます。

**○早坂会長** ただ今、説明がございましたけれど、新しく3点の項目が追加されたというこ

とありますが、この点について何かご質問承ります。

**○早坂会長** 質問がないようですので、この3点が新たに追加されるということによろしいですね。では、この案をもちまして新市建設計画の見直しの答申とさせていただくことで、よろしいでしょうか。

**○全委員** 了解

**○阿部地域振興課長** 新市建設計画の取り扱いにつきましては、本日を皮切りに地域審議会が各地域で開催され、同じく各地域で審議いただきますが、他の地域審議会でも計画変更が必要となるようなご意見が出された場合の取り扱いについてご説明させていただきます。この場合につきましては、会長会議を開かせていただきまして、そこでご検討いただき、そして最終的な答申をいただくという形にさせていただきたいと存じます。その場合、会長と事務局に一任させていただきたいと思っております。

**○早坂会長** 皆様いかがでございますか。事務局と会長に一任させていただきたいということとあります。よろしいでしょうか。

**○全委員** 了解

**○早坂会長** ということで、皆様よろしくお願ひいたします。

**○早坂会長** それでは第2号議案に移りたいと存じます。鶴岡市総合計画実施計画につきまして事務局より説明お願ひいたします。

## (2) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について

資料2に基づいて概要説明 (説明：上野政策企画主査)

**○早坂会長** この実施計画は3ヶ年計画ですが、26年度までの結果はどうなったのということを踏まえて、このような計画なのですか。それにしても、字句だけの訂正だけであって、目新しいものがこの人口減少だけですが、人口減少が大幅に変更している環境の中であって、もっと大胆なものが出てこなければしょうがないのではないかと思うが、なんとなしに今のものをずらっと並べただけのことになっている感じがします。皆さんどう思われますか。

**○齋藤春子委員** 私も同感です。なにが問題でどう変わったのか。根本的な流れがもう少しほしい。会長がおっしゃったような大きな問題点があるのであれば聞きたいと思っております。今までやってきた中で、少子化は具体的にこの辺が大きく変わったとかを聞きたいです。

**○佐藤政策企画課長補佐** 最初に、これまでの取り組みの評価についてのご指摘がございましたけれども、当然これまでの検証を踏まえて今回の内容を整理しております。

整理の仕方としまして、今年の夏に各担当で調書を作成いたして、それを基に市長のヒアリングを受けておりまして、今後3ヶ年力を入れていきます取り組みは何かということ今回資料で整理させていただいております。

内容についてかなりボリュームが一杯になりまして、この限られた時間の中で検証作業までご議論いただきますことは、きっと難しいかなということもございまして、論点を整理して今後こういったところに力を入れていくのだというような資料の作り方をしておりますので、ご了承いただければと存じます。

それから、どこが大きく変わったのかというご指摘がございましたけれども、資料の4ページをご覧いただきたいと思います。こちらの方に施策の展開方法ということで、全体の構成を掲載しております。特に今後3ヶ年間の間に力を入れていく部分を1の重要方針として示しております。(1)の鶴岡ルネサンスに基づくまちづくりの推進、こちらの方は、榎本市長が市長に就任して以来、このルネサンス宣言を柱にして施策を進めていくと宣言しております、それに基づく取り組みを整理しております。

(2)として人口減少対策の推進でございます。ここは近年の社会動向また本市の情勢を踏まえて非常に重要な取り組みであろうというようなことで、ここを最重要の課題として捉えて掲載したところでございます。

先程もご説明申し上げましたけれども、今年度、鶴岡市の人口減少対策総合戦略会議というものを立ち上げまして、各分野を横断的に全庁あげて対策について検討を進めているものでございます。来年度以降、力を入れていく3つの柱を基に5つのプロジェクトを定めまして、今回お示しをしております。

少子化対策から始まり、産業の振興、移住定住の促進という3本柱の中で、それぞれどういったことが出来るのかということで、知恵を出し合いまして今回整理してまとめております。なお、具体的にこういったことをやっていくということの他に、併せて将来どういったことに影響が出るのかとか、中長期の展望に立った時にどうしていくのかというような、ビジョン的なものも今後取りまとめていく予定にしておりまして、それについては、国のまちひとづくり創生会議本部、こちらの方でも国の動きとして進めておりますので、そうした国あるいは県の動向も踏まえながら、市としての方向性も定めてまいりたいと風に考えておりますので、よろしく願いいたします。

**○早坂会長** 人口問題が非常に大切だ、問題だと言われています。具体的にこの人口データの将来人口では、年少人口がH12年で22,000人、H22年で17,000人、H32年には14,000人と、H12年から8,000人も減ることになります。8,000人減るということは大変なことで8,000人増やすというために具体的にどういうことをするのか。例えば、子どもをいかに生んでもらうかを軸に書いてありますが、具体的な数字目標を作らないとダメだと思います。8,000人減ることは大変なことである。

もっと、具体的にやらないとダメで、例えば小学校に入るまで全ての子供の医療費を無料化する等、突っ込んでいかなければならないことはたくさんあると思うが、協議会をつくり、プロジェクトを作りますとかいったようなものばかりで、具体的な提案がない。具体的なものを出して議会で承認してもらわなければならない。

**○橋本委員** 前回、私が申し上げた世帯数減少については訂正いただいたが、そのことにつ

いて人口減少対策の5つのプロジェクトでは一言も触れられていない。世帯数の減に対する危機感が感じられない。この計画は29年度までの計画であるが、これから世帯数も減り町内会の統合とかも出てくると思う。先日の荘内日報に、世帯数の減少に対する危機感がないことに対して公益大学の先生が指摘しているという記事が掲載されており、幸い鶴岡市から協働研究したいという申し出が出ていたということでありました。

**○佐藤政策企画課長補佐** ご指摘ありがとうございます。報道にもありますように、東北公益文科大学の山口先生が、自治体ごとの世帯数の将来推計というものを今、調査研究しております。本市といたしましても、是非連携して調査研究として一緒にやっていければと思ひ、情報提供およびご指導いただいているところでございます。世帯数につきましては、世帯主と同じ数になるかと思ひますので、人口が減るといずれば世帯数も減るだろうと。本市についてはこれまで世帯数については増加してきておりますが、ただ、伸びが鈍化してきておひまして、まさに横ばい状態に入っていると見ております。一方で人口については、右肩下がりに減っていると、そうすると今後横ばいがいずれ減少していくのでないかこれまでの傾向性からすると増加という予測もあるわけですが、人口減少の度合いから見て、減っていくのだろうと考えております。ご指摘いただいたとおり、現在資料の中に世帯数が減るといふような記載はなかったかと思ひます。その辺りは人口減少の記載と併せてどういった記載が出来るのか検討してまいりたいと思ひます。

**○早坂会長** 皆さんいかがですか？

**○齋藤春子委員** 何が変わったのか。一体、人口減少を食い止めるためにどのような対策を練って具体的にどういう活動をしてきたのか。これから考えれば、人口減少を食い止める施策をどういう風に考えどうやるのか整理する必要であると思ひう。

以前、銀座通りの活性化ということで、道路を拡張して、店も後ろに下がったが、結果、今は飲み屋街になっている。最近、若い人と話した時に、藤沢周平記念館は何をPRしているか、開館しているだけでないかと聞かれた。藤沢周平作品の映画が上映されたり、定期的に朗読会が行われたりということが見えない。何もやっていないのではないかと市民から見られている。全国の会議に行くと、鶴岡は福祉も健康もトップだと言われる。しかしすべてがそうなわけではない。東北で残されている藩校は鶴岡の致道館しかないので、婦人会でも、ぜひ見に来て欲しいと話しているが、来てもらってもメインストリートであると紹介して案内するところがない。世界一の水族館だけでなく、常に動く鶴岡市であってほしい。

以前、中央公民館を建てる時に、空き間が出来たから市の施設を建てるということはおかしい。まちの全体計画が出来ていないと言った。そういう点を見直してほしい。関係ないかも知れないが併せて言わせてもらった。大変まじめな鶴岡だけれども、華やかさが無い。昔は、昭和通りを花笠踊りで踊りましたが、いつの間にかなくなっている。天神祭も盛んになるのではなく、むしろ逆になってきている。そういう活性化がほしいというのが、私の思ひであります。

**○今間委員** 私もこの計画の目玉が何なのか分からない。総合計画には、鶴岡市の目指す都市像「人 暮らし 自然 みんないきいき 心やすらぐ文化をつむぐ悠久のまち 鶴岡」とある

が、この書類自体がいきいきしていない。と思いました。これを読んで今後3年間、鶴岡市がどのように変わっていくとか、変わっていくことが分るようなことを書いてもらえると分かりやすいと思いました。

**○伊藤委員** 3年間でやれることは多くないと思うので、もっと凝縮した形で、この3年間はこれに集中してやるということではないのか。この計画では、あまりに項目が多すぎて、3年間でこれだけの項目をやっていくというのは、所詮無理な話と思われる。もう少し砕いてこれとこれをやっていこうと風に、普通の市民がすぐ分かる形の企画を立てて欲しいと思います。あまりに盛りだくさん過ぎると感じる。

**○竹田委員** 人口減少については、全国どこの市町村も課題になっていて、夕方のニュースにも良く流れております。先日は川西町が首都圏に行って居住しませんかと呼びかけたということをやっていました。これは、パイの奪い合いということになっていて、県でもやっているのです。鶴岡市でもこういう計画になるのは致し方ないと思います。その計画にどの位、予算が反映されるのか。他市町村に比較し、鶴岡市が多く予算を子育て支援につけるということになれば、鶴岡市が子育てに力を入れていることが目に見えて分かると思います。言葉にするとこのようになるのは仕方ないと思います。

この下のプロジェクトになるとやはり具体的に楽しいものが目に見えてくるのだと思います。各課の予算の奪い合いではなく、どの課も、子育てに予算をあげましようとなれば良いと思います。先端研にはすごい予算が使われて県と市から7億の予算がありますが、そのうち1億でも子育てにやってはいけないのかと普通の市民感覚では思います。先端研は夢ということもあり、ベンチャー企業、また大きなお金を生む何かこれから出来るというものがあるのかと思いますし、お金お金と言いたくないが、大きなお金が生まれるということで、市としても今予算をかけるということは分かりますが、もっとダイレクトに一般市民、普通の人々に分かりやすい説明があれば良いと思います。

**○丸山委員** 計画全体については、今後3ヶ年の計画であれば市として前3ヶ年計画の検証をしたということ、良いことも悪いことも含めダイジェストでも良いので出すべきと思います。出さないとまた計画作ってお終いと思われても仕方ない。膨大な資料をまとめたなら、もうひと手間かけて出すことで、市として検証した結果、今後3年間の計画を策定したということを示せると思います。そこは強く申し上げたいと思いました。

人口減少、少子化対策のための目玉の事業がないと言っていたが、自分自身が移住者で、友人も移住者で子育てしている人が多くいるので、その観点で一意見として検討いただきたい。移住者の子育ては近親者がいないとか、頼る人がいないという人が多い。移住者のそこが弱みであると思うので、そういう時に2人目3人目を生みたい時に壁があったりする。放課後の学童が全地域になく、たまたま気に入って移住した地域に学童保育がないために、保育園の時は遅くまで保育してもらっていたので働くことが出来たものが、今は遅くまで見てくれる人がいないため、自営業である夫婦が仕事をセーブして交替でみている。せっかく地域の活性化となる事業をしているのを抑えているというのはもったいないと思います。

そこで、移住者の子育てという視点を置いた方が、人口減少を抑えるという呼び水として良いのではないか。今いる地縁でここに住んでいる人の流出を防ぐというのも大切ですが、

もう一步踏み込んで、移住者して来てても、ここで子育てを続けられるぞというところを見せるような事業を入れたらいいのではと、移住してきた身としては感じている。

それと若者ワークサポートルームとか低未利用地などの用語が分かりづらいので、用語説明を入れた方が市民に向けて良いと思いました。

**○奥山委員** 総合計画の基本計画と比較し、やらなくてはいけないことを取り上げているのは分かるが、では何をやるのか分かりづらいというか頭に入って来ない。

人口減少を食い止めるということで、生んでもらうことは大切なのはわかるが、そのあとの保育園、小学校での充実という観点から、何をしていかなければならないか考えなければならぬと思う。

田川小学校は統合して子ども達は楽しくやっているようだが、楽しいけれどやはり田川小学校が良かったと言っている子どもたちが多くいる。何故なのか考えて欲しいし新しい小学校の様子も見たい。

例えば、鶴岡の給食は日本発祥の地であるが、それで日本一の給食と言えるのか。鶴岡に越してくると学校が楽しくて、楽しくてたまらないというような熱の入った企画が欲しい。個人的には、音楽・美術・創作活動の専門の先生をつけるとかで、もっと授業の中に取り組んでもらえたらうれしいなと考えている。

**○菅原委員** ほぼ概要なので細かいところの質問は思いつかないが、人口対策の推進ということで、15ページに人口減少総合対策戦略会議と、なにかとてつもないことをしそうな名称が書いてあるが、構成や目標など具体的なものが粗々でもあったら良かったと思います。

17ページの育児休業の取得促進というのがよく分からない。そのために実施することとして市の建設工事参加者の格付けとかはあるがそれ以外の業種の方についてはどうなのか。具体例なのか。気になった。

全体的には、子供を生んでもらえれば人口増えるのかもしれませんが3ヶ年で結果出すのは無理でしょうし、現実的には減少するのは仕方ないことで、減少した中で現実的にどのようなことが出来るのか。を検討する方が大事なのではないかと個人的には思っています。

**○小林委員** 自然災害についてですが、先日、日本海で大きな地震が起きると、5分で10メートルを超える津波が押し寄せるというニュースを見た。加茂水産高校や湯野浜小学校地域が対象になっている。ショッキングだった。もっと敏感に反応する必要がある。特に湯野浜小学校の近くには思恩園などの福祉施設がある。先日、思恩園の園長から、2年前に避難路の整備をお願いしたが未整備のままであるという話を聞いた。

人口減少が取りざたされているが、やはり今生存している人口を失ってはならない。生存者の減少を食い止めるという視点も重要である。そういったことから、ここに書いてあるようなことだけでなく、避難路の整備ということも必要であると思うので、もっと力を入れて欲しい。

**○稲泉委員** 最初に会長から検証結果・数値目標という発言があったが、人口の減少・世帯数の減少ということを出しているのだから、自然にいけばこうなるというのは分かるが、今取り組んでいくことで、どの位成果を出せるのか。この人口減少という点では、雇用の創出につ

いては市の消滅に関わる重大なことですので、はっきりと目標を掲げるべきで、それによって人口減少や雇用の創出にお金を使うということを明確に出来ると思います。総花的なことを防ぐためにも、はっきりとこれまでの検証結果とこれからの（3年ではなくもう少し長期的なものと思うが）数字目標を出して、努力をしないと、市の職員も責任をもって頑張ることにはならないと思う。予算の使い方も出てくると思われる。とりわけ前から言っているが、企業の誘致について載ってないのは非常に不思議です。雇用の創出という観点で先端研の関係は賛成だが、それ以外に企業を誘致するという姿勢を持ち続けることは絶対に大切である。

それから小学校でスキー教室をずとしてしている項目は非常に評価できる。願わくは森林文化都市であれば、それらの子供たちを森林の中で遊ばせる勉強させるということもこれに関してやっていただきたい。

高等教育機関との連携が載っているが、人口減少に関わって非常に重要な立場にあるのは高等学校と思う。高等学校は県立なので市は関わりにくいという発想は分かるが、県の総合計画は必ず届き、職員にも周知しているが、市の総合計画は一度も見たことがない。子ども達に本市がどうなるのかある程度は知ってもらわないといけない。大学大学というが本来は地元就職したいのに、大学に行くと帰ってこれない人の方が圧倒的に多い。そういうことを考えると、高等学校に関する市としての取り組みはどこにもないけれど、ぜひ何らかの取り組みを載せるべきではないか。そして総合計画等も高校にも届けるか、説明することが望ましい。

**○高山委員** 以前から言っているが、少子化対策では、今、子育てしている家庭が安心して子育て出来る環境を整えるべきでないかと思います。中学生以下の医療費の無料化、第3子以降の保育料の無料化と言っているが、実際は予防接種は対象外とか、保育料は年齢が離れていると対象にならないとか言葉どおりでないことがある。保護者への説明が必要とされるこの2つの制約を取って、ぜひ言葉どおりに実行してほしいと思っています。

**○茅野委員** 少子化対策は必要であるので、人口減少を抑えるためには、高齢者の力、知恵を借りて地域活性化を図ることをもう少し取り入れて欲しい。総合計画ですので私はこのように全体的なものであるのは当然と思っているが、これから、これを基にして誰がどのようにどこで実践計画をつくって実践していくのが課題と思っている。それが実践されることを期待している。

**○三浦委員** 世帯減少による影響がどこにも出ていない。総合計画があつて実施計画があるわけですが、来年度の予算要求が出ている時期ですので、具体的なことが出てこないと上手くはないのではないかと思います。基本計画であればこのような形で良いと思いますが、実施計画ですので数字目標も含め具体的なものを目に見える形で示す必要があるのではないかと思います。また、行財政改革の中である程度財政的なものも出ますから、人的な問題も含めてある程度ははっきりと示してもらいたいと思います。

**○橋本委員** 3つほど気になった文言がある。8ページのDCはデスティネーション（目的や行き先）、キャンペーン（宣伝）を合せた造成語なので、正式に「山形デスティネーショ

ンキャンペーン（DC）」と書くべきであると感じております。

10ページの「空き家の適正管理」であるが、鶴岡ランドバンクでも言っているが、今は空き地の方もかなりの問題が出てきている。そこでここは「空き家・空き地」とセットで適正化有効活用とした方が良いと感じました。

13ページ「庄内自然博物館構想」ですが「自然学習交流館」の愛称である「ほとりあ」はかなり定着している。最近の報道でも「自然学習交流館ほとりあ」と一体で報道されているので、ぜひ愛称を入れて欲しい。

**○山田委員** 総合計画という視点から考えますと、このように総花的な書き方はやもえないのではないかと感じます。しかし、どういう取り組みをして成果を上げていくのかという風になれば、今までやってきたことに対して、さらに改善をし発展させていくという視点を取り上げていかなければならないのではないかと思います。従いまして、今までやっても良くならないものは、どういう項目があるのかというチェックも必要だったのではないかと思います。

町内会連合会の最近の取り組みの中で、省エネということで夜間照明が変わったわけですが、町内会に市から来るお金が減額されたとだいぶ話題になっているのです。しかし東北電力に支払う金額も減っているのでは丁度いいのではないかとと思われるのですが、これも経過をたどっていかないとその成果が分からないわけですが、予算が削減されても夜は明るく煌々と輝いている。これは成果が上がりつつあるということではないかということです。例えば省エネという視点で、どういう取り組みをしていくのか、その結果良くなったのか悪くなったのかということの評価をして、さらにそれに関連した事業を推進していくというようなことが必要なのではないかと思われまます。

人口減少というようなことで大変話題になっているが、若い人たちが鶴岡に来て喜んで仕事が出来るとい環境整備をつくっていく必要があるのではないか。仕事だけでなく、鶴岡の学校は素晴らしいという教育環境も整っているということも大事である。今の学校教育をどう変えたらいいのかという話題もあるが、文部省が考えているやり方だけでなく、塾とかいろいろところで教育をやっているわけですので、そういうところの成果も踏まえて、積極的に学校教育の中に取り入れ学校教育を改善していくという意欲を盛り上げることによって、鶴岡に魅力のある学校が沢山あるということになっていくのではないか。そういう風になってほしいということでもあります。教育目標とか教育環境だけでなく具体的な教育技術そういった面についても着目していくことも大事なのではないかと話題になっているのですが、なかなかこういうものに具体的な言葉で出てこないというところで、難しいところでございますけれども。

**○齋藤春子委員** 温海の五十川小学校は子どもが10数人しかいなかったそうですが、地域の人が集まってすごく考え、やはり地域が無くなってはならないと話し合い頑張って30人超えたと聞きました。すごくうれしいことで、ぜひ話を聞きに行きたいと思いました。

**○早坂会長** みなさん熱心なご意見ありがとうございました。雇用の問題ですが、雇用協議会に関わっているのでお話しします。今年の高校の卒業生は1,600人位で、1,000人位は進学、就職希望者600人のうち400人は地元希望で残ってくれる。今は求人倍

率も良いのですが、だんだん地元に残ってくれる高校生が少なくなってきております。都会に進学で1,000人が出ていった場合、果たして2年後4年後に何人が戻ってきてくれるのか逆に心配になってきております。その辺のところ、ぜひ皆さんの頭に入れておいていただきたいと思います。ところで、子どもの出生数はどうですか？今年1,000人超えましたか？

**○高橋政策企画課長** 800人～900人台で推移しているところです。

**○早坂会長** そうですか。他に行ってしまうお子さんや亡くなる方を差し引くと鶴岡市は毎年1,000人位減ってきている。それを何とか食い止めなければならないと考えている中で、進学した子どもさん達が帰って来られる人数がどの位なのか。2～3割位しかいないのではないかと思われまます。これから雇用の場での課題かと思っております。

時間も大分経過しましたので事務局にお返しします。

**○阿部地域振興課長** 皆様からは様々なご意見ご知見をいただきまして、ありがとうございます。改めて整理いたしまして、私ども事務局で再度議論させていただきたいと存じます。

それから皆様方につきましては、本来であれば6月30日までの委員の任期でございましたけれども、新市建設計画の見直しがあるということで、任期を再任するような形でお願いさせていただいたところでございます。そして、新市建設計画の見直しというところでは、地域審議会の設置以来初めてでしたものから、様々、皆様の方にはご迷惑をおかけいたしましたこと心よりお詫び申し上げます。鶴岡地域審議会につきましては3回開催いたし、概ね予定しておりました課題につきましては、消化したものと思っております。とりあえず、鶴岡地域審議会はこの3回で終わりと思われまます。他の地域審議会と連携しながら、もし、課題が出て再度開かせていただく必要が出た場合、早坂会長さんにご相談させていただきたいと存じます。